

学習内容報告書 フォーマット

学校名	壱岐市立初山小学校
授業者	八幡 駿太 教諭

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「海の豊かさを守ろう」

1-2. 学年

3・4年生（複式学級）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本単元の導入において、地域の漁師から「壱岐の漁業の現状」について聞くことで、身近な「海」についての問題を知る。漁獲量が減少していることから、簡単な流通の現状などにも目を向け、学習課題を設定する。「どうしたらいいか」という課題を解決すべく、地域の方々や壱岐市の漁業協同組合の協力を得て、さらに現状について探求していく。その過程で、「海の環境が壊れている」ということに気づき、海洋ごみ問題や藻場の大切さと関連付けながら、自分たちにできることを模索していく。学習したこと、自分たちなりに考えたことを地域へ発信することで、実践意欲を高め、単元のねらいに迫る。

このような学習活動を通して、海を大切にしたい、漁業をもっと盛り上げたいという中学年なりの態度を育てていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

身近な海のすばらしさを実感しながら、探究する活動を通して、海の豊かさやそれを維持することの困難さなどに気づき、この海の豊かさを守り、海に関する市内の産業を盛り上げていく方法について考える（収集する・表現する）とともに、学んだことを自らの地域の豊かさを守ろうとする主体的な態度を育む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

【知識・技能】

- ・身近な海やそれに関わる環境の現状を正しく理解し、海に関わる様々な課題に気付く。
- ・考えた取組を自分の生活の中で実践することができる。

【思考・判断・表現】

- ・海の豊かさを守るため、具体的にどのようなことに取り組みばよいかについて考えることができる。
- ・得た知識や考えた取組についての情報を、工夫をしながら発信することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・海の豊かさを守り、海に関する市内の産業を盛り上げていく方法について考える（収集する・表現する）とともに、学んだことを自らの地域の恵を守るために主体的に関わろうとする。

1-7. 単元の展開（全60時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
つ か む	<p>○ 壱岐の漁業の現状を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション：壱岐の魚売り場と都会の魚売り場 ・ 壱岐の漁業について話を聞いてみよう。 ・ 地元の漁師さんから話を聞こう。 ・ 壱岐の漁業の課題って何だろう。 	<p>○ 身近な生活の中の「魚」について触れ、児童に課題意識をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師：初山地区在住漁師（有浦氏・丸谷氏） ・ 加藤大貴氏より資料提供：東京の魚の値段 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
調 べ る	<p>○ 壱岐の漁業についての課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壱岐の漁業のために働く人から話を聞く。 (詳しい現状、取組状況、課題の再確認) ・ 魚（イカ）をさばいてみよう。 ・ 自分たちにできることを考えてみる。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 海をきれいにする。 ② 魚をたくさん食べる。 ③ 藻場を守る。 </div>	<p>○ 漁師以外にも漁業に携わる方を紹介し、「漁業」についての見方を広げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壱岐市漁業協同組合勝本漁協組合員様/「壱岐のイカをさばいてみよう」 ・ 壱岐市水産課職員様/壱岐市の漁業の現状についてレクチャー <p>【主体的に学習に取り組む態度】【知識・技能】</p> <p>○ 現状（課題）の大体を整理し、どうしたらいいか見通しを立てさせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】【思考・判断・表現】</p>
深 め る	<p>○ テーマ別の情報収集・取組実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ①：「海をきれいに～海洋ゴミ～」 ②：「新鮮な魚を届けるために」 ③：「魚たちに藻場を！」 	<p>○ 見通しを基に、3つの分野について、体験学習や調べ学習を仕組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 加藤 彩愛さんと初山の海のごみ問題について考える。※ワークショップ「ごみにいのちをふきこむ」 <p>【主体的に学習に取り組む態度】【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 永村 弘一さんと壱岐の新鮮な魚を多くの方に食べてもらう取組について学ぶ。※三島校外体験学習 <p>【主体的に学習に取り組む態度】【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 漁協の方の話をさらに深く調べる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】【知識・技能】</p>
広 げ る	<p>地域へ情報発信（学習発表会） 広く情報発信（壱岐市発表会）</p>	<p>○ 地域や壱岐市への発信に向けて、まとめさせ、発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにタブレットに発表内容をまとめていく。 ・ 発表のためのタブレットの操作について学ぶ。 <p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

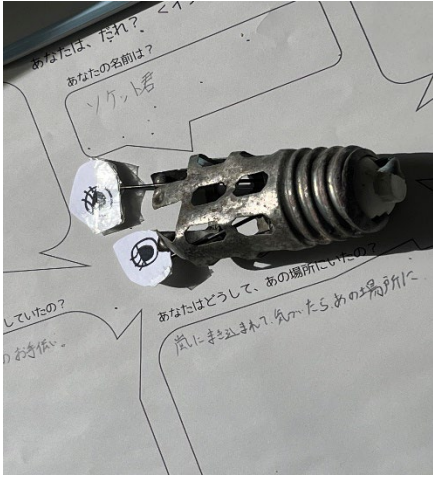
- 地域の海岸に流れ着く海洋ごみについての実態を知り、海洋ごみ問題への関心をより高める。
- ワークショップを通して、情動を伴った海洋ごみへの見方・考え方をすることができる。

2-3. 本時の展開

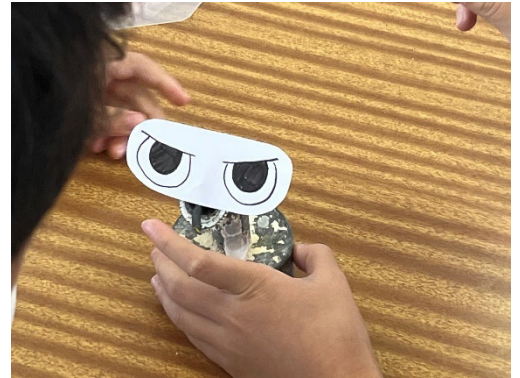
主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. グループごとに海岸のごみを集める。</p>  <p>2. 集めたごみを分別し、学校へ持ち帰る。</p> <p>3. ゲストティーチャーとの対話を通して、「ごみの気持ちを考える」という活動の見通しを持つ。</p> <p>4. みの中から「気になるもの・お気に入りのもの」を選ぶ。</p> <p>5. 質問が書かれたインタビューシートを使い、海洋ごみに対する思いをもつ。</p> 	<p>★担当講師（ゲストティーチャー） 一社・サステイナブル教育開発機構 educore</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全上の注意事項を、児童に確実に伝える。 素手で触らない。 液体等が入っている場合は、拾わない。 ・分別作業後、「このごみたちの気持ちって考えたことあるかな？」と問いかけ、次の活動への見通しを持たせる。 ・グループで1つ選ぶにあたり、なぜそれが気になるのかななどの発言を促し、児童同士の対話を持たせる。 ・「海洋ごみに対する思いを馳せる」ことができるよう、インタビューシートへの反応の手助けをする。 <p>【思考・判断・表現】 インタビューシート・発言</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに作業の支援をして回る。 ・児童にとっては「ごみに命を吹き込む」という未経験の活動であるので、自信をもって作業ができるように、こまやかな賞賛や助言をして回る。

6. 完成したインタビューシートを元に、選んだ海洋ごみに命を吹き込む作業を行う。

- ・ごみに自分がイメージする目玉や手足などの装飾をする。
- ・グループで話しながら行う。



※グループごとの発表は、地域への発信活動準備の中で進める。



3. 今回の活動の自己評価

- ・単元構成をゲストティーチャーと協力しながら行ったことによって、「海洋ごみに対して思いを馳せる」「海洋ごみに命を吹き込む」という、本校教員だけでは思いつかないような活動を児童に体験させることができた。
- ・身近にありながらあまり行くこともない海岸に足を運び、実際に流れ着いた莫大な海洋ごみを目にした児童は、これまでの学習で描いていた「海洋ごみ」のイメージ以上に問題は深刻であることを知ることができた。
- ・できることならば、これらの海洋ごみをどうにかなくしたい！という問題解決意欲も高まった。
- ・「ごみの気持ち」を考えるという、情動を駆使しながらの活動は、初めは、児童にとっては、ただ楽しいものであったようだが、次第に、問題解決への糸口としての大きな役割を果たす活動となった。

4. 今後の課題

- ・知識ベースでの考え方や見方にならない、今回のような指導内容の工夫ができるようにするためには、教師自身の識見を深める必要がある。そのための課題として、①指導者側の情報収集②外部専門家との連携があげられる。この点について、今後も継続可能な方法を定着させたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし